

平成 27 年度 十日町市まちひとしごと創生総合戦略 総合評価

■基本目標 I : 安定した就業の場を増やす		
総合評価	推進会議総括	委員からの意見
B+	<p><b>農業の競争力強化</b>を目的とした支援事業及び諸々の施策は、望ましい結果を達成していると評価し得る。ただ、農業の魅力新たな視点から構築し直す（6次産業化）等の単純な数値目標では評価し辛い質的観点からの注視・補強も将来的に期待される。<b>地場産業の活性化</b>は、数値面での若干の未達成が認められるが、それ以上に支援事業、クロスステンと市・観光協会との協働、埼玉県和光市への首都圏営業所の設置等によるインフラ整備は評価できる。これらは、モノとコトの両面から将来への地場産業活性化への駆動因なるだろう。<b>新規創業の支援</b>に関しては、経営指導や新規創業者相談を促進し、ビジネスコンテストの開催等を通じて新規創業の芽の醸成がすすみつつある。</p> <p>上記を鑑み 46 人の新就業の場の確保が実現しており、<b>安定した就業の場を増やす</b>取り組みが確実に進展しつつあると判断できる。将来的には、ミスマッチの解消、労働の多様性（ダイバーシティ）に積極的に取り組み、十日町市での就業の魅力づくりとその情報発信（プラットフォーム構築を含む）を継続的に進めていくことが期待される。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>未就職者の割合が 16%を超えている理由として、就業できていない情報などがあるか。</li> <li>ミスマッチというのが一番大きな理由と思われ、60 歳以上に関しては最近でこそ就職希望の方が増えてきているが、今までだと 60 歳でリタイヤする方が多かった。</li> <li>今後就業率を高めるには高齢者、女性、障がい者の方の就業率を増やしていくことが必要である。</li> <li>今後の調査では、例えば就業についてアルバイトやボランティアなども含まれるものか。</li> </ul>
1 農業の競争力強化		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)農業の担い手育成等、(2)6次産業化では、KPI（重要行政評価指数）である「認定農業者」、「新規就農者」、「6次産業等支援事業者取組者」をそれぞれにおいて、目標値に対する実績値が順調に推移しており、目標達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>《資料 2：検証シート P1》</p>	なし
2 地場産業の活性化		
施策評価	施策総括	委員からの意見

B	<p>(1)地元企業の振興、(2)きもの産業の継承の施策では、KPI 目標値に及ばなかったものの、目標値に向けて概ね進んでいる。また、(3)十日町産品の販売力強化では、地域商社を活用した販路拡大や販売力強化に向けた事業が本格稼働したことから、これからの効果が期待できる。</p> <p>《資料2：検証シートP1》</p>	なし
---	--	----

### 3 新規創業の支援

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)(2)新規創業件数は目標値に対して8割達成していることから、目標達成に向けて着実に進んでいる。また商工会議所などの協力を得ながら、今後、新規創業支援のさらなる充実を図り、目標値の設定も引き上げて取り組んでいく。</p> <p>《資料2：検証シートP1》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十日町市インターンシップ等支援事業で、補助対象者のうち2名のみ就職ということに少ないと感じるが、この辺りの総括はどうか。</li> <li>・一日、二日の研修期間では短いので、その仕組みも検討を願いたい。</li> <li>・トオコンは毎年行っていると思われるが、どのくらいの件数が応募し、その結果、どのくらい市が支援しているのか。またその効果はどうか。市報で見ているが実際にイメージし難いところがある。</li> <li>・トオコンの応募件数40件というのは、非常に多いと考える。</li> </ul>

### ■基本目標Ⅱ：結婚・出産・子育ての希望をかなえる

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
B	<p><b>結婚・出産・子育ての希望をかなえるための実現には、他の基本目標Ⅰ、Ⅲ、Ⅳの成否も重要な影響因として関与するため、トータルな街づくりの視点からじっくりと目標を策定し、これの実現のためのプロセスを着実に実践していくことが望まれる。さらに当該基本目標Ⅱであげられている各施策も、独立して実施されるのではなく相互関係を考慮しつつプラスに影響し合っていくことが期待される。</b></p> <p><b>男女の出会いや結婚の支援は、会員登録数の増加(78人→141人)から35組のカップルと4組の成婚実績は評価し得る。今後さらに経時的に統計の蓄積を行い、定性的要因を加味しつつ十日町市での男女の出会いの質の向上をめざしたい。出産・子育て環境の整</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率を上げることはとても重要と考える。出生率アップという表現が、マイナスに起因しないか一考するところがある。「生みたくなる社会」は良いが「生みましょう」と言うとバランスが難しい。表現の仕方によるものがある。</li> <li>・どうしても結婚＝出産という、独身でいることへの思いが敏感になっている人もいる。ここに住んでいて良かったと感じ、地元でパートナーとの出会いがあるよう、気軽に事業に登録できる誘い文句があればよい。</li> <li>・結婚促進イベント等に参加を促すことに罪悪感もあつたり、一方では、親として結婚や独立をしてほ</li> </ul>

	備・充実と仕事と家庭の両立の実現に関しては、ニーズ把握と他市・他県における先進的取り組みの学習を通じて、さらなる環境整備に取り組むことが望まれる。	しいという思いもあり、住み良い自分の地域を挙げて事業を進めて行ければよいと思う。
1 男女の出会いや結婚の支援		
施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)男女の出会いや結婚を後押しする環境づくりでは、成婚したカップル数は目標値に向けて概ね進んでいる。また結婚相談登録者においては、策定時から2倍に伸びていることから、目標値に向けて着実に進んでいる。</p> <p>ハッピー婚シェルジュなどの出会いの場事業の実施においては、参加者への事前レクチャーを充実させることで、異性との付き合い方や結婚に対する意識を醸成することで、目標達成に向けた取り組みを強化する。</p> <p>《資料2：検証シートP3》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>十日町の婚活イベントの会費も男性会費と女性会費の差があるが、参加する男性も出せる金額が難しい面もある。お金がかかるものと、もう少し簡易で皆が集える遊びの場など、何か工夫が出来ないか。金銭面も大事なところである。</li> <li>デリケートな部分でもあり、真剣な人もいれば意識も違い、成婚に至るのは大変なことである。事業からの出会いは色々あるが、追跡が難しい。成婚やカップルを数値化するのは難しい作業である。</li> </ul>
2 出産・子育て環境の整備・充実		
施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1)保育サービスや子育て環境の充実では、ファミリーサポートセンター登録数は下回ったが、活動件数は伸びており、利用料金を統一したこともあり、引き続き利便性の向上を図っていく。ハード面では保育園の施設改修や修繕が計画的に進められている。</p> <p>(2)出産・子育て支援の支援制度の充実では、平成27年国調における若い女性の人数が推計人口における人数より増えたことから、合計特殊出生率は目標値を下回る結果となった。若者の結婚促進を進めるとともに、子育て応援・子ども医療費助成のほか、不妊治療費助成の拡充・妊婦健康診査の助成などによる支援の充実を図りながら、引き続き取り組みを進める。</p> <p>《資料2：検証シートP3》</p>	なし
3 仕事と家庭の両立の実現		
施策評価	施策総括	委員からの意見

C	<p>(1)ハッピーパートナー企業登録数は目標値に向けて概ね進んでいる。また一方で、男女協働参画においては、市の各計画や審議会等への委員などにおける女性の登用率が低いことから、今後も一層の働きかけが必要である。</p> <p>《資料2：検証シートP3》</p>	なし
---	--	----

■基本目標Ⅲ：地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
A+	<p><b>都市部からの移住定住、地域の魅力を活かした交流の促進、郷土愛の育成・十日町ファンの拡大のいずれの施策も目標値に対して十分な達成が実現できたと評価できる。</b>今後都市部からの移住者の移住理由の把握から（移住元との相互関係の向上を考慮しつつ）移住促進策のさらなる改善につなげられることが望まれる。また、地域特性でもある豪雪や大地の芸術祭等の十日町市の強みを活かした里ブランド構築、長期滞在志向の体験型見学会（エクスカーション）やインバウンド・ツーリズムへの展開可能性が大きくあり、<b>地域の魅力を更に磨き、選ばれるまちを目指す活動へと収斂されることが大きく期待できる。</b></p>	

1 都市部からの移住定住

施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)移住・定住の促進は市の重点施策である。新たな移住定住策に取り組んだ結果、目標値を大きく上回った。この結果から、目標達成に向けて着実に進んでおり、今後も引き続き積極的に施策を進め、UIJ ターンの者の増加を図る。</p> <p>(2)地域おこし協力隊の定住率は全国平均を大きく上回る 7 割を超え、退任後は様々な分野での起業や就業し、地域で活躍していることから、今後も積極的な任用を推進していく。</p> <p>《資料2：検証シートP5》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若い世代の UIJ ターンの促進、目標設定のところで当初総合戦略策定時が平均 16 人、2015 年度末実績が 112 人となっているがこの乖離の理由は何か。</li> <li>・定住促進事業はずっと続いてくと考えてよいか。</li> </ul>

2 地域の魅力を活かした交流の促進

施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)「豪雪」など地域特有の資源を生かしたインバウンド誘客は、目標数値を大きく上回り、着実に進んでいる。</p> <p>(3)アウトドアを生かした田舎体験の参加者数も増加傾向にあり、目標達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(4)2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に合わせたソフト・ハード両面の事業が概ね進んでいる。スポーツ合宿数は横ばいであるが、誘致するターゲットの課題を整理・改善し、誘致促進に取り組んでいく。</p> <p>(5)大地の芸術祭では、第6回展を開催し、過去最高の来訪者数を記録した。交流人口が増加していることから、第7回展の目標達成に向かって進んでいる。</p> <p>《資料2：検証シートP6》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国人観光客の宿泊実績数が2,629泊であり、内訳が市内旅館業、宿泊業の実績数であるが、民泊について市としてどう考えているか。</li> <li>インバウンド誘客や大きなスポーツ大会だけでなく、例えば企業誘致であっても整備していただきたいのは、高速光ケーブルを整備していただきたい。</li> </ul>

### 3 郷土愛の育成・十日町ファンの拡大

施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)ふるさとを愛する地域教育の充実では、住む地域や十日町を好きと思う児童生徒数が高い数値であり、目標値を上回る増加傾向に推移し、目標値達成に向けて着実に進んでいる。</p> <p>(2)郷人会参加者数はほぼ横ばいであるが、当市を応援してくれる外部の力は年々増加している。</p> <p>(3)大地の芸術祭地元サポーターは増加傾向にあり、市民参加によるまちづくり進んでいる。一方で、第7回展に向けては多くのサポーターによる支援が求められることから、さらなる参加促進に取り組む必要がある。</p> <p>《資料2：検証シートP6》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>初めてアンケートを実施し、実績としては97.2%、89.6%という高い数値が出ているが、総合戦略の目標値は上がった数値ではない、KPIの目標値としては現状の96.8%、88.8%のまま、上を目指すことはしないのか。</li> <li>教育委員会の中でもふるさとを愛する子ども達の数値がとて高く驚いている。小学生だけでなく中学生もとて高く、大地の芸術祭などで大勢の人たちが十日町を訪れることでも、子ども達の郷土への自信に繋がっていると思う。</li> <li>こういった数値目標を練り上げていくことは、今後市の財産となる。</li> </ul>

### ■基本目標Ⅳ：安心して暮らせる時代に合った地域をつくる

総合評価	推進会議総括	委員からの意見
------	--------	---------

B	<p>時代にあった地域づくりでは、環境に優しいエネルギーへの転換やごみの減量化と再資源化促進を模索しつつ計画的に実施されている段階である。今後、将来的展望のもと費用対効果も十分に加味した持続可能性の観点から地域づくりが実践されることが期待される。安心して暮らせる地域づくりでは、地域特性でもある克雪対策に対してアンケート調査が実施された。その結果によると市民評価は、H27と比較して上昇（満足度4.4ポイント増）していることが確認された。当該調査は多様な項目から構成されており、毎年継続して実施されている。経時的比較の観点からも非常に貴重なデータ収集が行われていることは評価できる。</p> <p>小さな拠点づくりが、川西地域・仙田地区にて実現化されており、新しい地域運営のスタイルが築かれたことは評価に値する。</p>
---	--

1 時代にあった地域づくり

施策評価	施策総括	委員からの意見
B	<p>(1) 太陽光発電や木質バイオマスストーブの補助を充実させることで、市民レベルでの自然エネルギーの普及が進んでいるとともに、下水熱活用についても国の調査事業の採択を受けるなど、着実に進んでいる。また信濃川の維持流量を活用した小水力発電についても、調査研究が進められており、今後の実用化に向けて進められている。</p> <p>(2) 一般廃棄物（ゴミ）の排出量は前年実績から減量化が進んでおり、ごみ分別アプリの「エコラビ」の利用促進による、意識啓発にも積極的に取り組んでいる。</p> <p>また、Jクレジット制度を活用した民間企業との取引により、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出削減などにも取り組み、環境にやさしい循環型のまちづくりが進められている。</p> <p>《資料2：検証シートP8》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>太陽光発電の自然エネルギーの部分、目標値20,000メガワットの数字の中身を教えてほしい。</li> </ul>

2 安心して暮らせる地域づくり

施策評価	施策総括	委員からの意見
A	<p>(1)克雪対策に対する市民満足度は、目標値に対して概ね進んでいるが、豪雪地域の暮らしを守る政策は重要政策と位置づけられることから、今後も市民ニーズや課題改善に取り組んでいく。</p> <p>(2)小さな拠点の形成に向けた、仙田地域の住民主体による取組みは、生活圏を維持するための地域コミュニティ形成における一つのモデルとなった。</p> <p>《資料2：検証シートP8》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・克雪対策に対する市民満足度はどういう状況から 4.4 ポイント上昇したのか。</li> </ul>

検証全般に係る委員意見

- ・評価の方法について、資料3ではそれぞれ主な実績・成果があるが、これだけ見ると頑張っていることはわかるが、裏返してみると必ず課題がある。課題を書きおくと、全体を通して把握できると所があるので、そういう考え方も良いのではないかと。